

北極サークル日本フォーラム
(大臣御発言案：和文御参考)

オラフル・ラグナル・グリムソン・北極サークル議長閣下、
角南 篤・笹川平和財団理事長、
御列席の皆様、

北極サークル日本フォーラムが成功裡に開催されたことについて、心からお祝い申し上げます。今回、北極サークル地域フォーラムが初めてここ東京で開催されたことを高く評価するとともに、フォーラムの最終日に御挨拶できることを嬉しく思います。

まず、日本フォーラムの開催に当たり、グリムソン北極サークル議長に格別の御支援をいただいたことに深く御礼を申し上げます。グリムソン議長には2018年2月に文部科学大臣としてお会いして以降、北極サークルがますます活発になっていることに敬意を表します。

会議では、北極評議会の関係国とともに、先住民団体の皆様、科学者などが参加され、3日間にわたり有益な議論が行われたと聞いております。会議の共催者である笹川平和財団及び日本財団とともに、文部科学省、海洋研究機構、国立極地研究所など関係機関の方々による暖かい御協力に御礼を申し上げます。

今、世界は、歴史の転換期にあります。パワーバランスの歴史的变化と地政学的競争の激化に伴い、重大な挑戦にさらされています。日本が G7 議長国として力による一方的な現状変更の試みを断固として拒否し、法の支配に基づく国際秩序を守り抜くという G7 の意志を、力強く示していきます。このような観点から、北極においても法の支配が確保されることが重要であると考えています。

本年、我が国の海洋基本計画を策定予定です。その中で北極政策を主要施策の一つとして位置付けたいと考えており、現在建造中の北極域研究船は国際観測のプラットフォームとしたいと考えております。本年は、日本が北極評議会にオブザーバー参加してから 10 年になります。今回の日本フォーラムでも広く支持されたとおり、北極評議会は重要であり続けると確信します。日本は北極評議会の活動を支えるために関係国と緊密に連携していく考えであります。

ありがとうございました。

(了)